

第6回静岡県小児摂食嚥下勉強会

日時 平成29年2月 18日 (土)

場所 サラシティ浜松

ミニレクチャー 「重力から起こる身体の不安定を安定に変える姿勢保持」

講師 NPO 法人ポップンクラブ代表理事 村上 潤

演題発表1 「重症心身障害者の頸部後屈姿勢での食事～事例を通して考える～」

小羊学園 つばさ静岡 作業療法士 村上哲一

演題発表2 「安全に おいしく食べるための姿勢について」

袋井特別支援学校 教諭 林 美佐

演題発表3 「3歳児未満のお子さんの食事姿勢について」

伊豆医療福祉センター 作業療法士 佐々木直美

第6回は、NPO 法人ポップンクラブ代表理事 村上潤氏をミニレクチャーの講師に招き、第3回勉強会に続き「姿勢」をテーマにしました。

ミニレクチャー「重力から起こる身体の不安定を安定に変える姿勢保持」では、私たちが重力の影響下でどのような姿勢をとっているのか、骨格・筋・構造的な問題、姿勢の不安定さからくる不随意運動という視点など、子どもたちやご老人の椅子作成の映像をもとにお話していただき、それぞれの子どもにとっての良い「座位姿勢」について考えさせられました。

つばさ静岡の村上さん「重症心身障がい者の頸部後屈姿勢での食事～事例を通して考える～」は、側弯の進行に伴い頸部の後屈が顕著になり、支援者が頭部を支えて食事支援をしている成人のケースについての発表で、ケースの座位保持装置の作成における視点と検討したこと、修正方法などを具体的に説明してくださいました。

袋井特別支援学校の林さん「安全に おいしく食べるための姿勢について」は、給食時間の摂食指導だけでなく、学校という一日の生活の中で、食事に関わる姿勢や運動・コミュニケーションについて指導したケースの発表がでした。日常生活全般のアプローチのたいせつさや、教育現場と医療との連携が取り組みにつながったことがわかりました。

伊豆医療福祉センターの佐々木さん「3歳未満のお子さんの食事姿勢について」の発表は、静岡県では3歳未満では補装具の支給対象になりにくいいため、市販の椅子をウレタンやクッション・タオルなどを利用して子どもに合わせた実践例を伝達していただきました。リハビリでよい姿勢をつくれても、生活の中で再現する難しさや支援者への伝え方などフロアからの発言もあり、様々な工夫があること、それを共有したいという意見もできました。

短い時間ではありましたが、回を重ねるごとに、フロアからの発言があり質疑応答が活発になりつつあります。皆さんのアンケートからは、「もっと勉強しなくては」「子どもを見る力不足を反省」「医療や他の機関と連携したい」「この会で実践事例を聞くことができて、勉強になり励みにもなる」というような意見をたくさんいただいております。

今回は、小グループごとに検討することも取り入れるつもりです。

この会が障がい児者の方々の食事を支援しようと思う気持ちでつながっていく場になり、今まで以上に学習や意見交換がさかんに行えるような勉強会になっていくように準備していきますので、ご協力をお願いします。

参加者数 99名 施設数 40 職種 19

主催：静岡県小児摂食嚥下勉強会 共催：ホリカフーズ、フードケア、クリニコ、大和製罐

第7回静岡県小児摂食嚥下勉強会

日時 平成29年7月8日(土)

場所 静岡あざれあ

ミニレクチャー 「おいしくじょうずに食べるために」

講師 県立こども病院 歯科 加藤光剛

演題発表1 「一時胃瘻造設が考慮されたがスタッフ間の意識統一により経口摂取が継続できた一例～楽に・楽しく・食べる～」

小羊学園 つばさ静岡 生活支援員 太田温子

演題発表2・グループ検討

「摂食時に口を開けようとしない児童の摂食指導について」

東部特別支援学校 教諭 田宮来美

演題発表3・グループ検討

「在宅の医療的ケア児に対して訪問看護で摂食を支援した1年間の取り組み」

浜松市発達医療総合福祉センター 友愛のさと診療所 保健師 山本卓磨

ミニレクチャーは、こども病院 加藤金剛先生に、「おいしくじょうずに食べるために」というテーマで、食事の基本を丁寧にお話ししていただきました。つい、忘れてしまいがちなことなので、この勉強会で改めて再認識できたというアンケートの声が多数ありました。(パワポもとてもきれいで、これからも必見です)発表は3演題ありました。つばさ静岡の太田温子さんの発表では、支援方法の伝達方法として、紙面や一斉指導でなく、直接食事場面で1対1で支援方法を伝えることが効果的ということが印象的でした。東部特別支援学校 教諭 田宮来美さん、友愛のさと 保健師 山本卓磨さんからは実践の報告と検討課題をだしていただき、グループでの検討をしました。発表者の力のこもった丁寧な取り組みで子どもの食事のあらわれが変化していく様子がわかりました。発表者から提案された課題についてグループで話が尽きず、アンケートでも「話し合いの時間が短い」という声を多くいただきました。会場や時間の設定など、事務局として今後は工夫して、また検討会方式の機会を設けることも考えたいと思います。

参加者数 72名 施設数 25 職種 15

主催：静岡県小児摂食嚥下勉強会

共催：ホリカフーズ、フードケア、クリニコ、ヘルシーフード、大和製罐

第8回静岡県小児摂食嚥下勉強会

日時 H30年2月17日

場所 サーラシティ浜松

テーマ 「障がい児者に対する食形態の現状 その3」

ミニレクチャー 「たのしくおいしく、つながろう。わが子の応援をしよう。

～かまえず作ろうペースト食。経験はチカラなりを信じて～」

保護者 清水智子 隼（藤枝特別支援学校小3）

演題1. 当施設の食事風景

生活介護事業所ポップライフ 栄養士・調理士 山本智美

演題2. 子どもたちに合わせた食形態の工夫

いこいの家 副主任児童指導員 下山裕美子
保育士 齋藤知夏

演題3. やわらか食とまとまり食の組み合わせ

藤枝特別支援学校 栄養教諭 小栗美樹子
教諭 松浦ゆか

演題4. 形態食の改善に向けて

富士特別支援学校 栄養教諭 繁田晃子

ミニレクチャーの講師には、初めて保護者の清水智子さんを迎え、「たのしく おいしく つながろう。わが子の応援をしよう。～かまえず作ろうペースト食。経験は力なりを信じて～」というテーマで、食を通しての子育ての実践のお話しやや献立の紹介などをしていただきました。演題は、生活介護事業所ポップライフの栄養士 山本智美さん、いこいの家の副主任児童支援員 下山裕美子さん 保育士 齋藤知夏さん、藤枝特別支援学校の栄養教諭 小栗美樹子さん 教諭 松浦ゆかさん、富士特別支援学校の栄養教諭 繁田晃子さん が、それぞれの実践を発表して下さいました。毎回発表者の丁寧な取り組みに感心すると共に、自分の実践を見つめ直す機会になります。今回は、家庭での工夫やそれぞれの機関での食形態や工夫について聞くことができ参考になりましたし、勉強会で初めて食形態をテーマにした第2回から、食形態についての各機関での取り組みがすすんだことがわかりました。

参加者数 95名 施設数 44 職種数 14

主催：静岡県小児摂食嚥下勉強会 共催：ホリカフーズ、フードケア、クリニコ、大和製罐、ニュートリー

第9回静岡県小児摂食嚥下勉強会

日時 平成30年7月14日

場所 静岡あざれあ

テーマ 「姿勢について その3」

ミニレクチャー 「小児の摂食嚥下障害に対する呼吸と姿勢アプローチ」

理学療法士 稲員恵美先生（県立こども病院）

演題 1. 「側臥位でのお楽しみ食」

小羊学園 つばさ静岡 作業療法士 村上哲一

演題 2. 「摂食指導を受けたいという保護者の願いに応えて

逆嚥下のあるAさんの摂食指導の取り組み」

県立東部特別支援学校 教諭 松野幸子

演題 3. 「食事は 美味しく 楽しく ゆったりと」

NPO 法人はだし工房共同作業所 看護師 加藤春美

ミニレクチャー

らくに呼吸をすることが、子どもの生活や活動の基盤になる。図や映像を通して、多くの実践から、らかな呼吸のための姿勢や嚥下の構造や機能を事例を通しての講義、経時的に事例の紹介、肺の機能をだいにすること、重症児の摂食側臥位での食事の効果などについて

演題 1 側臥位姿勢とまとまりペースト食の組み合わせで、喘鳴やむせ込みの症状が減少し、少量でも経口摂取を継続している事例について 本人の得意な姿勢に合わせてクッションやタオル、ウレタン加工で姿勢を安定させた。

2 高等部入学を機に、教員による摂食支援が可能になった事例について 母親の摂食支援をもとにして、学校現場で摂食支援を実現するために、医療機関での摂食評価に教員も参加し、支援のポイントを確認した。

3 成人では、車いすは7年間作り直しができないため、姿勢がくずれたまま食事をしてきたケース 施設内で工夫したところ、嚥下がしやすくなり、食事動作にも変化がでた。新しい車いすも食事には合わず、以前の車いすでの食事姿勢をイメージして工夫したところ、摂食の状態も改善できた。

アンケートから

ミニレクチャーの稲員先生には、事務局から、「子どもを支援する方々なので、知ってほしい事柄については、専門的なことでも伝えてほしい。そのために使用される専門用語なら、そのまま使っていただきたい。」とお願いしていました。そのため、「知らない用語やわからないこともあったが、子どもに可能性があることを強く思うことができた。もっと勉強して、またこの話を聞いていたい」という内容が多く寄せられました。その他、「専門的な話を聞けて勉強になった」「呼吸と嚥下が深く関わっていることを知りました」「基本的な知識、実際の子どもの様子まで幅広く参考になった」など。演題発表には、「対象児の状況をしっかりとらえ、チャレンジできることを考えていきたいと思います」「とてもすごい実践報告が聴けたと思っています」「他職種間で意見交換ができる時間になったと感じました」「今回初めて参加しましたが、摂食嚥下に興味を持ちました。感謝します。次回も参加したいと思います（義肢装具士）」など実践報告に感銘を受けたという意見が多くありました。また、取り上げてほしいテーマについても多くの意見がありました。今後に生かしていきます。

参加者数 145名 施設数 44 職種数 17

主催：静岡県小児摂食嚥下勉強会

共催：ホリカフーズ、フードケア、クリニコ、大和製罐、ニュートリー